

(1) 看護管理者育成につながる看護管理者の中堅看護師へのかかわり (第2報)

医療福祉学研究科保健看護学専攻修士課程 ○木村 純代

医療福祉学研究科保健看護学専攻 古賀 雄二

医療福祉学研究科保健看護学専攻 守屋 文夫

【目的】

本研究では、中堅看護師・モデルナース・看護管理者の3者像を明確にするとともに、看護管理者の中堅看護師へのかかわりを明らかにすることを目的とした。

【方法】

A病院に勤務する看護管理者(看護師長・看護副師長)に半構造化面接を行った。インタビューガイドを用いて①基本属性、②中堅看護師に備わってほしい資質、③意識して関わっている内容、④大切に伝えていること、に関するデータ収集を行った。録音データから逐語録を作成した。前後の文脈から、最小の意味の単位を抽出してコードとした。コードを相違性・類似性により分類してサブカテゴリーとし、同様に抽象度を挙げてカテゴリーとした。

【結果】

対象者は9名(看護師長8名,看護副師長1名)であった。中堅看護師に求められる資質として、【客観的に物事や自己をとらえる力】【他者への公平で誠実な姿勢】【看護実践力を伸ばし続ける姿勢】【患者・

家族の思いを引き出す力】【スタッフの思いを引き出し導く力】【チームとともに前を向く姿勢】【倫理的感受性と発信力】の7カテゴリーが導かれた。看護管理者の関りとしては、【中堅看護師に俯瞰的な内省を促す】【中堅看護師の目標を引き出す】【意図的に承認を伝える】【中堅看護師が自己肯定できる関わりを持つ】【日々のかかわりを重要視した信頼関係を基盤とする関わりを持つ】【公平性や感謝を伝えることで心理的安全性を確保する】【キャリアアップに合わせた支援を行う】【看護観を言語化する】【看護を考える働きかけ】【自己を客観視できるようにフィードバックをする】【個人特性のポジティブフィードバックをし続ける】の11カテゴリーが導かれた。モデルナース像は11カテゴリーが導かれた。看護管理者像は5カテゴリーが導かれた。

【考察】

看護管理者の関りの根底には、中堅看護師との信頼形成の構築(心理的安全性の確保)が必要であると考えられた。